



SHIBETSU ROTARY CLUB DISTRICT 2500 JAPAN

士別ロータリークラブ会報

Vol.015

No.2907

創立 1960・3・24

RI 第 2500 地区

2025-2026 年度 国際ロータリー・テーマ
会長 フランチェスコ・アレツォ
「よいことのために手を取り合おう」

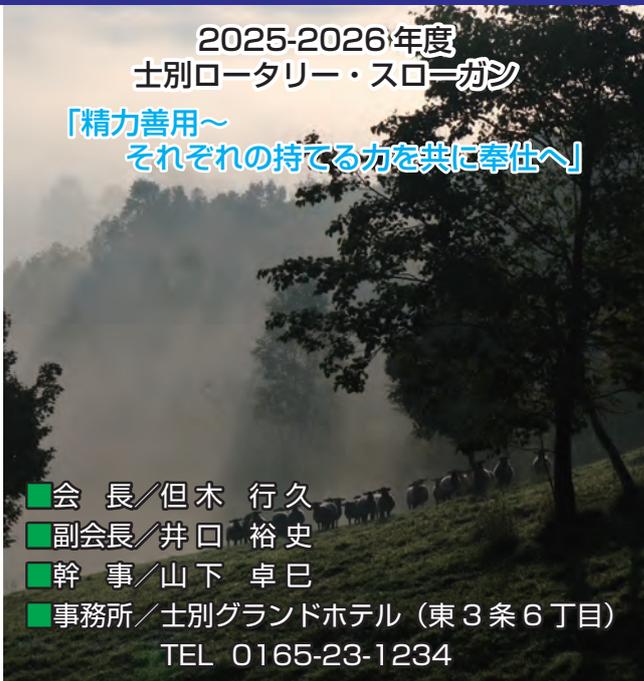
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度 RI2500 地区・スローガン
「Rotary のことを熱く語ろう！
～ Rotarian Benefits を紡ぎ、そして育むために～」

- RI HP <https://www.rotary.org/ja>
- 2500 地区 HP <https://2025-2026.rid2500.jp/>
- 士別 RC HP <http://www.douhoku.jp/sibeturc/>
- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10

2025-2026 年度
士別ロータリー・スローガン

「精力善用～
それぞれの持てる力を共に奉仕へ」



- 会長／但木 行久
- 副会長／井口 裕史
- 幹事／山下 卓巳
- 事務所／士別グランドホテル（東 3 条 6 丁目）
TEL 0165-23-1234

第 3000 回例会 2025 年 12 月 15 日（月）

今日のプログラム：夜間例会・ファミリーパーティー

● 前回（12月8日）の記録／例会・会員卓話・結婚祝い

司 会 片庭隆暁 会場監督
 斉 唱 我らの生業・四つのテスト
 本日の出席 会員 45 人中 出席者 36 名 出席率 80.00%
 本日の欠席 榎本實男、大江智宣、工藤雅史、國森和磨、穴戸 淳、田中道也、千葉洋介、奈良康弘、南條忠勝

メイクアップ 神田英一（第 3 回次年度ガバナー補佐研修会議出席 11/29）

ニコニコ BOX 但木行久（令和 7 年度 北海道建設部工事優秀者受賞）

累計 166,000 円

● 例会予定

◆ 1 月例会（職業奉仕月間）

- 1 月 5 日（月） 例会・理事会
- 1 月 12 日（月） 休会（法定休日：成人の日）
- 1 月 19 日（月） 例会
- 1 月 26 日（月） 夜間例会

◆ 2 月例会（平和構築と紛争予防月間）

- 2 月 2 日（月） 例会・理事会
- 2 月 9 日（月） 例会
- 2 月 16 日（月） 夜間例会
- 2 月 23 日（月） 休会（法定休日：天皇誕生日）

■会務報告・・・・・・・・・・但木行久 会長

皆さん、こんにちは。
先週の年次総会に際しましては、会員の皆様のご理解のもと、次年度の役員、及び理事の承認を、いただきました事、改めて感謝申し上げます。又、パスト会長会の皆様には大変、御世話になり、ありがとうございました。
来週の例会が3000回記念ということで、先日、過去の会報を覗いてきました。第2000回例会が、平成13年5月21日に開催されています。会長は市田孝一氏、副会長 竹内栄一氏、幹事 本山忠之（ただのり）氏
又、第1000回例会が、昭和55年1月7日に開催され、会長 深沢宏紹（ひろつぐ）氏、副会長 今井清次氏、幹事 犬伏彰吾氏
となっております。例会第1回目の会報がないものかと、探したのですが、残念ながら見つからず、保管されている中で一番古いのではと思われる会報をみつけてきました。
第366回例会 昭和37年6月29日、年度替わりの、最終例会で、次年度会長に大野会員のお父上であります、大野忠義氏が会長に就任された時だと思われませんが、例会後の親睦晚餐会と題してのコラムが掲載されていたので、ご紹介いたします。親睦晚餐会、場所／むつみにて、例会終了に引き続き、恒例の晚餐会に入りました。（酒はうれしいの玉ぼうき）とも言われてきた如く、お役目ご免の各役員には顔面に安堵の色がみなぎり、1年の活動に不満足な反省事項はあっても、解散されるに及んでは、ほっと一息つくこと自体が、その職務に責任を感じていた証拠で、時間の経過も忘れての歓談は、会員相互の友愛を、いやがうえでも高めたものと思われまします。と綴られています。時代は変われど、仲間同志で、酒を酌み交わし、いい意味での士別ロータリークラブの伝統を、引き継いでいければと思ったところです。さて来週は、士別ロータリークラブの最大イベントであります、ファミリーパーティーが開催されます。
併せて、昭和35年5月12日、RIより承認を受けて以来の、士別ロータリークラブ、3000回目の記念すべき、例会となります。
先人に習い、会員、家族との楽しい夕べを、大いに楽しんで、お祝いしていただければと思いますので、来週は、よろしくお願い致します。この後、次週の例会3000回を記念して、大野会員より貴重な卓話を、いただく事となっております。大野会員よろしくお願い致します。以上 会務報告と致します。

■幹事報告・・・・・・・・・・山下卓巳 幹事

①12月のロータリーレートは、156円です。
②2026年台北国際大会の案内が来ております。申し込み締め切りが12月10日となっております。締め切りがまじかとなり大変申し

訳ございませんが申し込み希望の方は私までお知らせ願います。

③来週15日の例会はファミリーパーティーですが、当クラブの例会開催がちょうど3000回となります。そこで理事会で協議した結果、来年5月に当クラブにてIMが開催されますのでその予算からこの度ロータリークラブ記念ジャケットジャンバーを購入することを決定いたしました。サイズ表を回しておりますので、ご自分のサイズのご記入をお願いいたします。

■会員卓話（例会3,000回記念卓話）

大野裕一郎 会員

皆さん「今日は」先月但木会長より、今回の席を依頼されました。と申しますのも、私の父がチャーターメンバーであり、創立時の初代幹事でもあったからです。会報の創刊時についてと言うよりも創立時についてお話ししたいと思います。当クラブには、私の父や志村会員の祖父がチャーターメンバーでもあり、また同年（1960年）入会された佐藤忠雄氏は、佐藤元信会員の父でもあります。今回は、大変恐縮に存じますが、私が代表するという事で、ご理解を賜りたいと思います。あくまでも、父忠義からの「伝聞話である事」とロータリーに関して「アドバンスされた事」そして、現在「感じている事」をお話したいと思います。



①士別 RC の設立は、皆さまご承知の如く1960年（昭和35年）3月24日ですが、その創立前の発起人会が（森実、松田、赤岡、西條、乗田、輿水、大野）、1960年3月8日美船に於いて開催され、当時の経済同友会メンバー25名が出席し、師尾護道特別代表の指導により旭川西ロータリークラブをサンプラザクラブとして、同年（昭和35年）3月24日（木）に士別ロータリークラブを設立しようと決定されました。

②次に「三役を誰にするか」の協議になったとき・・・以前、「下関 RC」に在籍歴のあった日甜の松田 栄所長さんに初代会長をお願い、副会長に森実易逸氏、そして幹事は、若い者がやれとの一声で～小使い役・走り使いという気持ちで～父忠義が（当時41才）指名されたようです。

③いざロータリー運営が開始されると、送付されてくる通信文は全て英文であり、読めない、判らない、直訳してもロータリー専門用語が珍しく見当もつかないという連続であったようです。やむを得ずロータリーの勉強で、旭川や岩見沢のロー

刈-クラブへビジターとして出席し例会運営を学んだそうです。

④今日では、各半期の出席率は少なくとも30%に達しているが、クラブのプロジェクトや行事活動に参加することが必要となり出席条件が相当緩和されましたが、当時は、出席率も厳しく半期60%を切ると資格が終結するため、近隣の刈-クラブ(名寄・旭川)にメキップをして頂くよう積極的に欠席会員に勧めていたようです。当時のレポート;ある会員の方が、60%を切っていて、資格が無くなる旨話に出向いたところ相手の刈-資格がなくなる前に自分の仕事が無くなった。と笑いながら話しをしていましたが当時は深刻で、そのジレンマ(板挟み)をヒシシと感じていたようです。

●父がなぜ、そこまで刈-を大事にしていたのか? なぜ私を入会させたのか? なかなか理解できませんでした。

⑤父が私に入会話をしたのは、平成4年(1992年・42才)春頃であったと記憶をしています。「社長に就任して10年目になるな、7月から私(73才)と交代して士別刈-クラブに出なさい」「毎週1回の例会で士別の経営者の方々と交流し親交を温めながら、奉仕の精神を学んできなさい」との一言・二言でありました。

⑦刈-に関し父からアドバイスを受けたのは、2004年(平成16年)に、故千葉道夫会員が会長で、私が幹事を受けた時でありました。その時の言葉は、「やっと身を入れて刈-を勉強できるな」刈-は素晴らしいものだから、～「自分にとっても素晴らしいものにしてきなさい」「刈-精神である“奉仕の理想”を理解する近道は職業奉仕を学び理解することだ」このアドバイスを受け、職業奉仕を学ぶことになって、父が刈-を大事にしていた事が少しずつ理解できるようになったかなと感じています。刈-とは、「奉仕の理想」の下に集う組織です。

換言すれば、「自分のことを後回しにして、他人のために役立つことをしよう」その慈愛の(善意の心=助け合う、思いやる)心が、実は自分のためになる。

(「超私の奉仕」+「職業奉仕」であり「刈-哲学」なのです)そして、此の事を「体験的に信じている人、信じようと努力している人」が刈-クラブであり、その集まりが刈-クラブなのです。言葉では、理解できても何故か消化不良で、能動的になれず他に良い表現方法は無いものかと苦慮しておりました処、過般「抜粋のつづり」の中である文章が目にとまりました。その内容を端的に、お話ししますと、

●人間には、「幸せホルモン」と言われるものが二つあります。

一つは、自分が幸せを感じた時に分泌される

セロトニンというホルモンで、美味しいものを食べたり、いい景色を見たり、温泉に入って気持ちがいい時に、分泌されるホルモンで、その効能は活力や元気が出るそうです。

もう一つは、他人に喜びや満足を与え幸せにしようとした時に分泌されるオキシトシンというホルモンです。その効能は、ストレスを緩和し、感染症の予防を高め、健康を増進させ自分の命を守ってくれるものです。まさに「善意のところが実は、自分のためになる」という「超私の奉仕」であり「長寿の奉仕」でもあるのです。皆さん、オキシトシンをドンドン分泌させようではありませんか。

⑧例会における出席義務についての私流の概念について私達人間は、万物の霊長として動物界の最高位に君臨しています。しかし所詮、動物です。動物の摂理・本能は、「弱肉強食」であり、この習性をゼロにすることは出来ません。だからと言って放置したのでは、共同の社会生活が成り立ちません。そこで、天(神・仏)は、人間に二つのツールを与えました。

①「理性」

②「慈愛の心」～(助け合い、思いやりの心)です。

●理性と慈愛の心を持った者が、人間としての存在価値をもつのです。

共同の社会生活において、私たちは、「動物的な面」と「理性を持った面」を行ったり来たりしている、いわば左右に大きく揺れる、振り子のような存在なのです。

そんな悩める存在であるが故に、正しい道に導いてくれる「トレーニング場」と「素晴らしい友」が是非必要なのです。そのフィールドが、「RCであり例会」なのであります。

⑨最後になりましたが、「士別RC創立の回想」として初代会長の松田栄氏の寄せ書きの一部抜粋を読ませて頂きます。

■12月の結婚記念日

財団米山奨学委員会・近藤峯世 委員長



大野裕一郎、奈良康弘(欠席)各会員